

## 令和5年度 法人 事業報告

令和6年度介護保険報酬改定を見据え、福祉ニーズの複雑化・多様化・地域社会との共生に対応していくために、何が私たちに出来る事なのかを考えた。当法人の理念を根幹に、社会福祉法人としての存在意義を追求し、良質な福祉サービスの提供を続ける事を目標に事業運営を行なった。

度重なる災害や感染症等により、職員の代替がきかずにサービス自体の提供が困難・人材不足に拍車がかかり倒産を余儀なくされる法人が後を絶たない。災害や想定外の事態が起こった際に介護の提供が可能な状況を維持できることや、安定した運営を行える法人であることが国から求められている。人口構造や社会経済状況の変化を受け、社会福祉法人を取り巻く環境も急速に変化しているが、求める要件に対応できるよう整備していく。

### 【理念】

みつめあう目と目 つなぎあう手と手 ふれあう心と心 人と人との絆を大切に

### 【年間目標】

- ①感染症対策の徹底
- ②接遇意識向上
- ③地域とともに歩む施設づくり
- ④介護人材の確保、介護現場の刷新
- ⑤職員の働きがいのある職場づくり

### 【実践報告】

#### ① 感染症対策の徹底

- ・コロナウイルス感染症5類移行後も、重症化リスクが高い高齢者に対する接触を伴うサービスであるという特徴を職員に周知徹底し予防に努めた。職員や家族、サービスご利用者等が基本的な感染対策を継続していたが、施設内感染を防ぐことが出来なかった。重篤化したケースは幸いな事に無かった。
- ・BCPに関しては随時見直しを行っている。

#### ② 接遇意識向上

- ・各部署、基本的な行動基準は概ね実施出来ている。業務多忙な時や夜勤等の精神的に負荷が生じる場面でご利用者への対応や声掛けに丁寧さが欠ける傾向にある。不適切ケアに対するアンケートを職員に実施。改善すべき課題を部署間で情報共有し、解決を図る。
- ・神戸市監査指導部による特別監査に係る虐待嫌疑があった。詳細については、ケアハウスふるさと事業報告ご参照。不適切ケアに該当する部分を具体的に分析考察し、改善していく。

③ 地域とともに歩む施設づくり

- ・事業運営していく中で、地域におけるセーフティゾーンとしての役割は果たした。地域における公益的な取り組みに関しては、コロナ感染症動向を注視しながら参画した。ほっとかへんネット垂水、今年度から垂水地区を4つの区域に分割した地区毎の活動が開始。(塩屋地区での活動に属する)社会福祉法人神戸少年の町での子ども広場の見守り活動に可能な範囲で参加した。
- ・現場での実習生等の受入に関しては、感染症対策を十分に行った上で受入を行った。(デイ塩屋5名・特養2名・ケア2名)

④ 外国人介護人材の活用

- ・今年度のリタイヤ者は1名(令和3年度に雇い入れたEPAスタッフ)
- ・新たに外国人スタッフを5名(フィリピン人EPA1名12月・ベトナム人特定技能実習候補者2名11月・ミャンマー人特定技能実習候補者2名10月)・短期アルバイト2名(ミャンマー人2023年11月~2024年3月)雇い入れを行う。年度末在籍外国人スタッフ合計15名、介護職員総数に占める割合も1割を超えており、当初の受入目標を達成。介護福祉士試験の合格を目標に引き続き支援していく。
- ・令和6年度は5名受入予定。

⑤ 職員の働きがいのある職場づくり

- ・ヘルメットの購入を助成、勤務で使用する際の自転車乗車時の着用を義務化した。
- ・眠りSCAN等介護機器のICT化を進め、職員の負担軽減を図った。
- ・令和6年4月から労働条件明示のルールが改正、労働条件通知書の見直しを図った。
- ・資格手当対象者を居宅介護支援事業所職員にも拡充した。

【苦情件数】

苦情件数：0件